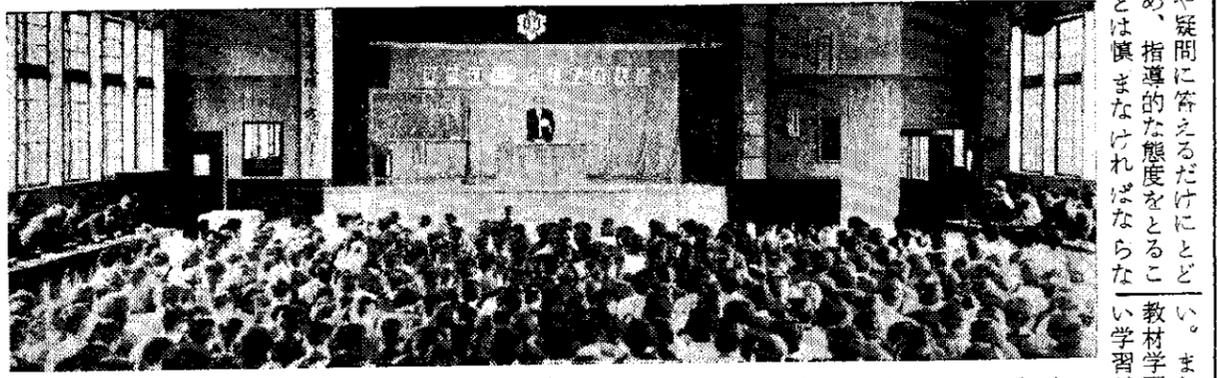


# 村づくり家づくり

## 其の二 都市社会教育大会より

社会教育の方法  
 (1) 社会教育活動の分化と統一  
 国民が自ら生活に即した学習をやるということになれば、多種多様な問題があるが、たとえば農村の場合、経営規模の相違、教育程度、興味等によっても関心や違つておもしろい。本来社会教育の内容はきわめて多岐にわたるべきであらう。多岐にわたる内容をもつていてよいのである。しかしそれはお互いによらばらであつてよいというのではなく、お互いに学習の交流をはかつてゆくことが大切である。たとえば政治の問題、社会の問題、個人の立場としての問題である。また婦人会や青年団のなかにグループが生まれた場合、その団体の他の仲間にもたえずその学習の成果を反映し、呼びかけることが大切である。社会教育活動の分化と統一という考え方を団や会のなかで生かすことである。

(2) 小集団学習のあり方  
 単に小人数のものが集つても一つの構造をもつた学習集団でなければならぬ。中核となる世話人(リーダー)と、積極的に活動する人(キヌター)が育つてこなければ小集団学習の効果はあがらない。このようにならなければならない。小集団の人数は六名ぐらいがよいとおもう。十五、六名になると、しばしばプレイボーイ(遊離している人)がみられる。六名ぐらいであれば、各自が主眼に主体でなければならぬ。学習の密度も一ばん高いのである。小集団学習をやる場合、注意しなければならぬことは、司会者は自分だけで満足するということに充分気をつけて、できるだけみんなに発言させるように努めることが大切である。もう一つは積極的協力してやる活動家と世話人の分野、役割をはつきりさせておくことである。リーダーは仲間の質問



や疑問に答えるだけにとどめ、指導的な態度をとることは真まなければならぬ。また小集団学習では、教材学習が良いか、話し合ひ学習が良いか一方にきめてしまふのではなく、両方を適当に組み合わせる学習すること大切である。なお教材については、生きた教材については、たとえばその土地に直接関連のある産業、政治の問題などについて村会議員などから話を聞くことも大切である。その他新聞、雑誌の切抜きや、機関紙、文集などの交換をやつて、共同学習をやつてゆくことが良い。長野県のある婦人学級では、生活のなかから生々しい問題をとりあげ、文集をだして、このよきな活動を通して教材を豊かにして行くことが必要であつて、素手で話し合ひということでは学習の効果はあがらない。機械的に部落単位で共同学習をやるといふことではよくないとおもう。かつて秋田県の横手地方で実験的に二年間やつて見

# 養老院を慰問して

田沢地区婦人会長 吉楽 ハル

去る十一月九日田沢地区婦人会は、土市養老院にみなが厚いお情けをお届けしました。

養老院は、玄関近くに薬局、荷物預り所、応接間、院長室、向つて右に台所、風呂場、広間、何れも近代的な設備でした。

次に寮の各部屋を案内されましたが、どの部屋もきちんと整理されており、又誰一人として汚れ見苦しい者はいないようでした。

老人達は私共の慰問を待ちわびており、知り合ひの八を見るよりはやくとびよ

わが国の社会教育は明治以来やゝもすると形式的に終つてしまふという傾向があることは深く反省しなければならぬ。社会教育は五年なり十年なりの長い年月をかけてこれをすすめて行かなければならぬ。(以上)

写真は宮原誠一氏の講演



# 冬期学級講座設計画

村づくりや新生活運動をすすめるには、まず人間づくりからはじめなければならぬ。青年学級や婦人学級定期講座などによる学習活動もその意味で社会教育事業のなかで最も重要な位置をもっているが、中里村の現状は全く低調である。それにはいくつかの問題点が考えられるが、計画や内容に魅力がなかつたり、地域の実情や生活の実態をよくつかんでいないかという点と、地域の人が学級や講座の性格をよく理解していなかったのではないだろうか。

社会教育活動は、実際生活の余暇を利用して行われるのではなく、それらの日常生活のなかで学習を取り入れてゆくことがのぞましいのであるが、地域の実情や生活の実態からすれば、やはり冬期農閑期を利用

発行所 民所館  
 中里村公刷新  
 十日印町新

読書生活記録、演劇、書道、ペン習字。

二、婦人学級について  
 (1) 人の話を聞く態度、人の前で話のできる習慣、人と協力しながら進む態度とさらに実際の生活のなかからいろいろの課題をみつめて解決していこうとする態度を養う。

(2) 開設期間昭和三十四年一月から三月まで。

(3) 部落学級と中央学級をつくる。

(4) 学習内容、生活課題の発見と問題解決学習話し合ひ

三、定期講座について  
 (1) 中里村の社会教育の課題にあらわれた生産教育の問題をとりあげ、農業の科学的思考を啓発して産業振興をはかる。

(2) 開設期間昭和三十四年一月から三月まで。

(3) 開設場所、中里村公民館

(4) 学習内容、農業の科学化、稲作技術、農業と気象、畜産と経営、農業と機械、土壌と肥料、農業の経済、農業生活の合理化等。

# 貝野小、屋体竣工



竣工成つた屋体及びステージ

予ねて施工中であつた貝野小学校の体育館は、十一月三十日竣工したので、その落成式を十二月六日、同間の鉄骨木造建築で、村内盛大に行つた。

本体育館は、九間張十六校で多数来賓の参列を得て

# 雑感

## 人間の美醜

貝野中学校長 徳 永 泰 三

女といわず男といわず、美人であり美男子であるという事が処世上有利な条件であると考えられている。従つて醜い事が劣等感の原因になることは、決して勘ぐらない。殊に女子は男子より美醜を気にかけ、醜婦は強いひげめを感じ、屢々ひがんだり、ひねくれたりする。然し歴史を見ると、大事業をした人、社会国家に貢献し偉大な足跡を残した人は、しばしば醜い人であつたことも事実である。

例の聖哲ソクラテスは唇が厚く、鼻が低く、醜かつたという事がいわれている。又東聖ペートル・ヴェンの写真を見ると、如何にも残忍醜悪な顔をしてゐる。貧しい農家の子から閩白になつた豊臣秀吉は、猿面冠者といわれる程醜男である。斯う考へて来ると、他にも多く数え上げることが出来る。

要するに幼時に醜かつた者でも、健康美と其の人の円満なる性格とによつて、精神美を發揮することは決して不可能ではない。

これに反して美しいことが身の仇となり、不幸の原因となる事も世には多い。美しく生れつゝ子女が、両親や周囲の者からほめはやされて有頂天になり、其の結果とかく人を見下げる態度をとり、年と共に現実の社会を離れて空想的となり、高慢になる者が多い。そして甚だしくは美貌を生活の中心とし、美装をこらし、美食を好み、ぜいたくなり、その為心も身も減すようになり、中年頃に美そのものも衰へ、遂に地に落ちた天女のようなみじめな生活を送る者が少なくない。人間として考へて見ることではないでしょうか。

# 無燈の町

## ……土に生きる……

中里村大字倉俣字幸川部落の開拓地。

「原町」は現在十世帯で未だ電灯も入っていない。開拓地といえど誰かが知っているように戦後引揚者や、二、三男の失業対策として重要視されて来た。

当時唐鍬一本で空腹を抱え、素裸で苦斗し続けて十余年営農の基盤も着々確立し、ともかく供出米をトラックで出荷出来るようにまで至つたのである。

私達は、この人々の過去一日一日の業績について注目しなければならぬ。

終戦直前、食糧生産の急激な低下に対し、食糧増産緊急法により県開拓事業協会の協力を得て増産隊というものが生れた。まもなく敗戦で危境に陥つた現況に立ち、昭和二十一年ここに幸川部落二、三男八名は黙々と開墾に立ち向つたのであつた。当時未開墾地であつた、二〇ヘクタール(約二十町歩)という地に、唐鍬を振り上げて開墾をしていったのは、子供心にもはつきりとした。

二十三年には戦車を改造したといわれるトラクターにより樹木が倒され、ハツパによつて木の根がおこされていった。やがて貧弱ではあるが家が建ち、耕やされた後には作付がされていった。もちろん化学肥料などはおまじない程度だつた。よく「線香ソバ」と云うが、全く線香作物で、大豆四つか五つ位しか実らなかつた。それでも手類から大豆、粟まで出荷しなければならなかつた。もちろん彼等は残つた収穫物と、わずかな開墾補助金で支えられていたのである。

二十四年にはこの大原の開拓地六ヶ村が「津南開拓」となり、組合を結成、県立農事試験場が設立され、土壤の研究及び作物の研究が

された。

こうしてどうやら陸稲を作るまでに至り、そして自分で作つた米を食べられるようになった。

現在は乳牛の飼育もやつているが、これも最初は山羊から始まり、綿羊、鶏、豚と交つてきたのである。当時の年間収入はわずかに二万五千円程度だつたといわれるが、その中から償還金を払わねばならなかつた。組合でも年間二百五十万からの借金返済に四苦八苦だつた。

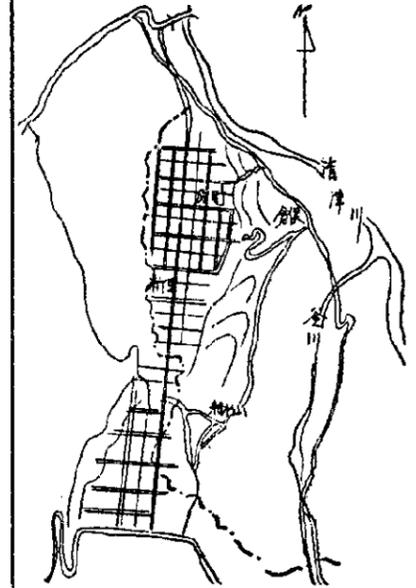
冬はまた夫は出稼ぎ、妻は豪雪と戦つて飢えをしのいでゆかなければならぬのである。

二十三年四月の台風で、被害を受けた幸川部落の二世帯が新たに入植者に加つた。だが二十八年八月の烈しい落雷によつて尊い命が失われたことも、未だ生々しい傷あとして残つている。しかし努力の甲斐あつて近頃はすっかり民家という感じが出て来た。真新しい畜舎が建てられ、北海道にまでとりに行つて来たというホルスタインがその感をよく表している。

人口四十三人、その半数は子供であるがみな健康である。赤子の時から土と遊び、疲れてはウネを枕として育つたのだ。

昨年は耕転機も入つた。一戸平均約一、五ヘクタールという耕地を、爆音高く耕やすさまに村人達も羨む程である。

農林省でもこの開拓地に一億五千万円の建設費をかけ、更にこの津南開拓に対して「集約酪農指定地」としてゆるモデルケースとして仕立てようとする期待をかけている。



津南開拓地六ヶ村の一角

昨年から五ヶ年計画で、開拓農振臨時措置法という大々的な計画が立てられた。

尚寒地牛乳としては県下一である。学童が十人程いるが、登校前に牛乳の配達をするのが彼等の仕事である。今年には雪中派出所が建てられて雪の中を二時間もかかつて登校する負担は解消された。そして更に来年は電気を引こうと意気込んでいる。(幸川M.S.)

◆俳句の部

一般と学童と分けて行う応募作品も相当多く、自然、人情をよく諷詠し、格調高き作品多く、作家の風格を偲び、今後の中里民族文学に期待多きものあり、益々御健勝を祈る。

◆写真の部

技術構想の把握、芸術境の進歩をみせているが、数の少なき点、書道とともに一株の淋しさを感じた。今後の御健勝を祈る。

◆決算報告

十月村の身体傷害者福祉協議会では、その事業資金にあてる為、映画を行つたその益金の処理は次の通り

定期貯金 一〇、〇〇〇円  
村の年末助合運動に寄付 一、〇〇〇円  
年賀はがき購入三〇〇枚 (全員一人五枚宛) 一、五〇〇円  
困窮会員見舞金 一、五〇〇円  
本年度会計(一、二二〇円) 計 一五、二二〇円

# 今年作アタマジヤイケナイ 今後の肉ヅケ

## 中部地区農業改良普及事務所 樋口 虎治郎

◆今後の考え方

牛の肉ヅケをやる農家が最近多くなり、又消費も多くなり、今後生活の向上と共に一層肉の消費は多くなるであろう。

しかし肉ヅケをやる場合旧来の経営方式を変えないで、そのままの牛の肉ヅケをとり入れた農家が多いと云うことだ。とにかく農家は技術だけでなく、生活様式に於ても、旧来の型を変えないで、そこに新しいものをクツツケたがるクセがあると云う。であるから、経営、生活の中に全く入つてゆかない。こんなものをコブツキ農業と云うのである。だからコブはすぐ落ちてまたもとに戻る。牛の肉ヅケもこれと同じこと。

肉ヅケをやる場合、この仕事を経営の如何なる位置におくか、充分経営を整理して考えることだ。

例えばその一例として自分の家では水田が多く畑が少ないから、農業所得の基

幹部門としてはイネ、基幹である以上色々の新しい技術をとり入れ、徹底的にこれを伸ばさなければならぬ。更にコメの生産をより上げるべく、牛を飼い、畑の一部にエサを作り、冬は肉ヅケをやり、春又新しい牛を入れる。又自給野菜も少々作る。この場合この牛と野菜は先の基幹部門に対し補足部門と云われ、この牛は肉ヅケ年一頭位で、野菜も自給野菜の一部となる。基幹部門と云うものは基幹部門を伸ばすための最少限度にとどめる。

第二例としては、畑が多く、水田が少ないから、肉牛を経営の基幹部門としてやり、その畑には徹底的に牛のエサを作り、年二、三頭肉ヅケをする。この場合肉ヅケのより新しい高度の技術をとり入れ、一頭当りの生産費を下げ、市場競走に対応出来るようにしなければならぬ。この場合水田は補足部門として置き、更に基幹部門を伸ばすべく

裏作等も考へることもあろう

又第三例として、水田、畑共に多い経営の場合、水田、肉牛両方、基幹部門としてとり入れ、この場合勿論牛は年二、三頭肉ヅケし畑には徹底的に牛のエサを作り、肉ヅケの為の購入飼料を減らさなければならぬ。この補足部門としては自給野菜を最少限度作り、買った方がトクな野菜は作らないで買うことだ。

ナンデモ、カンデモ、人間の食うものはイッサイ、ガツサイと云う自給自足的な多角経営では今後絶対ダメだ

メだと云うことだ。ニツチもサツチもゆかなくなりどこの生産部門もうまくゆかなくなる。

自分の家では以上のうちどの方式に入るのか、ここをハッキリして、経営を単準化し、何れかの位置に牛をおかねばならない。そうでないと、肉牛は経営の中に入らなく、何時になつてもソソをする。エサをうんと自給して基幹部門としてやるのか、補足部門の存在なのかドウカ……

(以下次号)

# 日曜日

## 田沢小学校六ノ一 古高 繁雄

今朝起きて見たら霜がおりていた。きんじよの子供が大ぜい集つてフーフーフをまわしている。僕も行って廻した。僕はこしでまわしてみたらまわされた。手でもまわされた。お母さんが出て来て

「しげお、お前もまわしたんか」といった。僕は「うん」といった。商會のかずえちゃん、たまのまるい竹にテープをまいたものをまわしていたが、小さい子

供なのでよくおとす。おちてからおしりをまわしたのでもんな大笑いした。このごろフーフーフはだんだんはやらなくなつたがまだ方々でやつてゐる。今はねだんも安くなつたそうで大きいのが二百円で買われる。僕も正月になつたら買つてもらいたいと思つてゐる。家へ帰つてははんをたべた。僕はまた家の人におこられてしまった。父はあまり言わないが、母と兄が僕

をおこる。大てい兄と口げんかをする。今日も又やつてしまった。

「繁雄はつか遊ばしておればつか遊ばせねんだな」と言う。父は「繁雄は小さいから遊ばせらんだがな」というと母は

「繁雄、お前この間学校でライスカレーの作り方をならつて来たねーか、今日は一つ作つてくれ」と言つた父と兄は「そやだそやだそれがいいや」と笑つて仕事に出ていった。

僕は急に面白くなつた。まず一番はじめに肉と玉ねぎを買つて来て、家にあるじやがいものと人参を洗つた。じやがいものかわはなかなかうまくむけなかつたが、てまをかけてむいた。玉ねぎも切り全部じゆんびが出来た。それからなべに油を入れて、材りようをいれた。よいにおいが家の中へ一ぱいになり油のけむりや野菜のにおい音がしてゆげがはじまった。

次々とざざりようを入れていつたけど、とうとう水をたくさん入れすぎたり、しおをたくさん入れすぎたりして、学校でつくつた時よりうまくなかつた。

そのうち家の者が次々と帰つて来た。ぼくは少しはづかしかつた。

「いよいよたべるときが来た。家の者は食べ始めたが、「しよつぱい、しよつぱい」と言い出した。

僕は「この間学校で作つた時、しおが少なくてしよつぱくなかつたので、今日は少ししよつぱい入れすぎたのだ。でも家の人はうまさうにたべたので安心した。カレーライスが少しあまつてあすの朝食べようということになつた。そこへ時計屋のおじさんがやつてきて、

「繁雄、おまえは榮養士になつたな」と言つて笑つた。僕は「この次に作る時は、もつとしおのがげんや、水のかげんをよくしておいしくしようと思つた。

母は

「ライスカレーは繁雄にかぎる、こんど作る時はお前にまかした」と言つた。

僕は「おはんのあと家の人にお茶を出してやつた。家の人も時計屋のおじさんもお喜んではんだ。時計屋のおじさんは僕のものまかせようとしたが僕はのまなかつた。でもみんな喜んでいて、僕はこれからは家の人の手助けをしてやろうと思つた。